

高性能なレーシングパーツを装着するだけでは得られない  
“感性に問う完成度”こそが、コンプリートバイクの存在理由。  
特別なオーラを放ち、所有し操る喜びを目指してモトコルセが独走する。

文 / 伊藤康司 写真 / 真弓信史  
協力\_モトコルセ <https://www.motocorse.jp/>

## 理想のバイクを目指して

### ライダーの夢に込める 作り手の情熱

「本当に良い物は、詳しくない人が見ても感じるじゃないですか。華があつて、オーラがあつて。当社のコンプリートも、そう感じてもらえたら嬉しいですね」。神奈川県厚木に拠点を構えるモトコルセの代表、近藤さんの言葉だ。

モトコルセは、ドウカテイライフスタイル東京、ドウカテイ埼玉の母体であり、ビモータやヴァイルスなどプレミアムバイクや最高峰レースにも採用される高品位パーツの正規輸入元を務め、オリジナルパーツの開発にも余念がない。そんな同社が力を注ぐのが「コンプリートバイク」の製作であり、冒頭の言葉は、そのバイクを作る

うえで目指すべき信念といえる。

「メーカーのデザインをリスベクトし、理解することから始めます。市販車にはコストの制約もありますが、本当はこんな素材や部品を使いたかつたんじゃないか、こんな仕上げを目指したんじゃないか?」など、考えます。その上でプロダクトとしての完成度を高めるために、カーボン製のオリジナルパーツやトップクオリティのブレーキやサスペンションなどを用います。ですから奇をてらつたり、メーカーが望んでいないと思う造形はしません。そこを踏み外すと、別の物になってしまいます」

今の時代、お金さえ出せば高性能なレーシングパーツも入手できる。しかし、そのパーツを装着するだけで、良いバイクになる訳

ではない。性能はもちろん、とすればルックスさえ違和感が生まれる。だからモトコルセは、創業当初からパーツを装着するだけのカスタムではなく、完成されたコンプリートにこだわり、その完成度は海外でも認められている。

「ペイントやグラフィック、オリジナルのパーツの造形や仕上げなども、ひとめで、これはモトコルセだね」と、感じてもらいたいですし、そのために同業の友人さんが見ても納得の仕上がりを目指しています。そんな想いをカタチにする技術を持ったサブライヤーさんとスタッフに感謝しています」

畏怖するまでに美しいコンプリートバイクは、趣味世界に没頭したいライダーと、その想いに応えるモトコルセの情熱から生まれる。



近藤 伸

こんどう・しん / モトコルセ代表。  
1994年にMOTO CORSEの前身であるCORSEを創業。当初は「ビモータのSB6専門」という、極めてニッチなファクトリーショップだったが、同社のSB6SRが0-1マイル計測で327km/hの最高速度公式世界記録を樹立。その経験を活かし、プレミアムバイクをベースに珠玉のコンプリートバイクを製作し、現在に至る



bimota  
TESI-3DCR Speciale  
世界限定6台

TESI-3DCRをベースにMoTeCのフルコンとTFTタイプの多機能ダッシュ、大型エアダクトを有するCR用アッパーカウル、17ℓフューエルタンク、STM製乾式スリッパークラッチ、ブレンボ製前後レーシングキャリパー & マスター、BST製カーボンホイールなどを装着。モトコルセコンプリートバイクはビモータ社認定。メーカー保証も付帯する。(写真のセラミックディスクはオプション)